

IT を活用した生涯学習事業プランニング講座

レポート



(財)日本視聴覚教育協会主催・文部科学省助成による標記講座のワークショップが、3月10日(木)・11日(金)の2日間、東京・国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催された。この講座は、生涯学習・社会教育でのeラーニングの活用という、現代的な課題に対して、昨今、注目されているブレンディング(インターネットによる講座と対面講座を融合する)の手法をとりいれ、実施したものである。

講座のねらいは、ITを活用した生涯学習事業のプランニングについて、インターネット講座とスクーリングによるワークショップを通して学ぼうとするもの。

受講者はITを活用した生涯学習事業についての総論を、職場や、自宅からインターネットWeb上で受講し、ワークショップに参加している。

インターネット講座は平成16年11月から平成17年2月まで、3週間ごとに新しいコンテンツが追加・蓄積していった。また、インターネット講座の実施にあたっては、「富山インターネット市民塾」のサイト上で公開した。

当初、インターネット講座には15名が登録し、最終的にワークショップに参加したのは、そのうちの10名であった。

インターネット講座の内容は、情報化時代における社会教育施設の役割や、ITを活用した生涯学習事業の事例、今後の展望、また特に注意が必要になってきている著作権問題についての解説、そして、ITを活用した生涯学習事業のケーススタディとして、eポートフォリオ(PushCorn)について事前の学習を行った。

受講者は教育委員会や生涯学習センター職員、ボランティアリーダー、NPO職員等であり、アンケートによると、ワークショップに参加した方々は、すべてインターネット講座を視聴することができた。

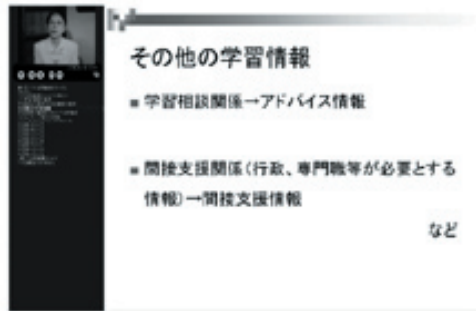
視聴の形態は、自宅で夜間視聴が最も多く8名、職場の勤務時間中及び休憩時それぞれ4名、職場で勤務時間外3名であった。また、インターネット講座でコミュニケーションのツールとして掲示板を使ったが、掲示板の情報を一部読んだ受講者が5名、全部読んだ受講者が5名、自分で書き込んだ受講者は3名であった。

インターネット講座を受講しての感想は、自宅で好きな時間に学習できることのメリットを述べたものが多くみられた。また、充実した講師陣を反映して、コンテンツの内容に対する評価も高かった。

**平成16年度 文部科学省助成
ITを活用した生涯学習事業プランニング講座**
～ インターネット講座とワークショップで学ぶ、市民のためのIT活用学習事業の企画と支援 ～

インターネット講座スケジュール・講師紹介

■第1講「ITを活用した新しい事業のあり方について」	
講師：山本 恒夫（八洲学園大学教授、筑波大学名誉教授）	公開中
第1回「生涯学習支援システムの中に位置する」	公開中
第2回「バーチャル学習空間を作る流れの中で考える」	公開中
第3回「情報化による生涯学習の活性化を背景に置く」	公開中
・休憩コーナー「コンピュータと成人の教育・学習との関係」	公開中
■第2講「ITを活用した事業の展開」	
講師：浅井 経子（八洲学園大学教授）	公開中
第1回「IT活用事業のタイプ」	公開中
第2回「IT活用事業の展開」	公開中
第3回「IT活用事業を計画する上での留意点」	公開中
・休憩コーナー「学習者の見えない事業の動向」	公開中 New!
■第3講「ITを活用した生涯学習の事例」 ～eポートフォリオ(PushCorn)～	
講師：前川 道博（東北芸術工科大学責任講師）	公開中
第1回「eポートフォリオとその事例」	公開中
第2回「協働学習の支援事例」	公開中
第3回「学習機会への提供事例」	公開中
・休憩コーナー「産みの叫びと子育て」	公開中 New!
■第4講「ITの活用と留意すべき著作権」	
講師：浅井 恒夫（筑波大学教授）	公開中
第1回「現状「ITプランニング」に著作権者の目」	公開中
第2回「著作権の基本的な知識」	公開中
第3回「著作権に特に関心する最近の動向」	公開中



インターネット講座は各講義を3つのコンテンツに分け各々を10分～15分の長さにし、講師の動画付き音声と説明資料がリンクしている。各講座は本編に加えて休憩コーナーを設け、講義の息抜きとなる話を講師が提供している。このコンテンツは、
http://www.java.or.jp/mm/elearn_16.html で公開している。

ワークショップでは、インターネット講座で学習したことについて、事例研究で協議を深め、「実習1」ではeポートフォリオを使って、事前に用意した素材写真を元に、自分の地域を紹介したり、旅のレポート作成といった課題に取り組んだ。

また、翌日の「実習2」では『自らの地域でITを活用した学習プログラム』を作成するという課題に取り組んだ。ITを活用した学習プログラムを開発するにあたり、一般的な生涯学習プログラムをITを使ってより魅力的な学習プログラムに改変するという方法で、作業を進めていった。

ワークショップのアンケートからは、講師や受講者間での意見交換ができたこと、「実習1」でのeポートフォリオの作成を体験できたこと、著作権についての理解が深まり、意識が高まったことなどを感想にあげている方が多かった。「実習2」の学習プログラム作成では、発表時間が十分にとれなかったことを指摘されている回答もあった。

また、今後希望されるワークショップの形態では、グループでの実習及びディスカッションを中心にしてほしいという意見が、ほとんどであった。



事例研究「市民のためのIT活用学習支援の
第一歩」—ITを活用した生涯学習事例から—

- 事例①ボランティアが運営するITサロン
村上 長彦氏（足立区教育委員会青少年センター青少年事業係長）
- 事例②学社連携のIT活用
吉川 貴士氏（愛媛県新居浜市立垣生小学校PTA会長）
- 事例③eポートフォリオで楽しく協働学習
前川 道博氏（長野大学助教授）
- 事例④地域でつくるeラーニング講座
柵 富雄氏（富山インターネット市民塾推進協議会事務局長）
- コーディネーター
山本 恒夫氏（八洲学園大学教授、筑波大学名誉教授）
浅井 経子氏（八洲学園大学教授）

ワークショップ



実習1・「PushCornを使ってポートフォリオ制作」で、ツールについて解説する前川道博氏(長野大学助教授)



受講者が作成したeポートフォリオ作品はhttp://www.javea.or.jp/mm/elearn_16.htmlで見ることができる。



実習2「自らの地域でITを活用した学習プログラム」を作成する



講義「生涯学習に関する著作権最新動向」著作権や肖像権の問題について敏感になることを指摘する坂井知志氏(常磐大学・大学院教授)



学習プログラム変更前と変更後を比較し説明を行う受講者



講座終了時、(財)日本視聴覚教育協会井内慶次郎会長より受講者全員に修了証が手渡された